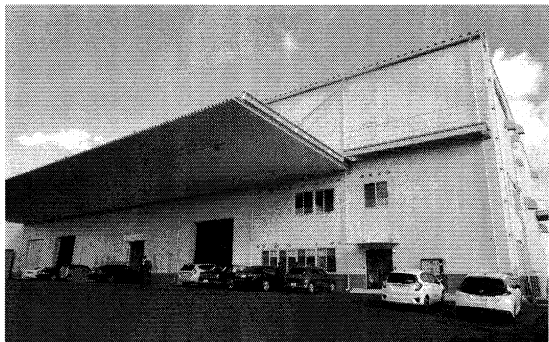
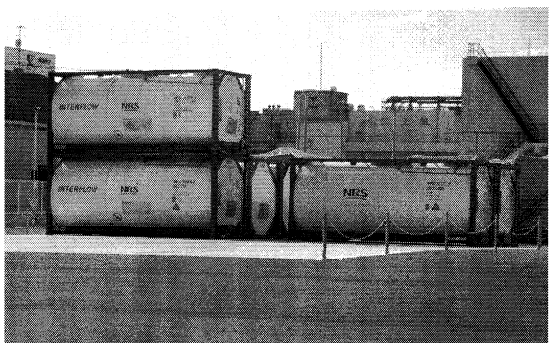


危険物倉庫



一般品倉庫



ISOタンクコンテナの保管にも対応

兵機海運（本社・神戸市中央区、大東洋治社長）は1月29日、神戸市内で兵庫埠頭物流センター（神戸市兵庫区）の竣工披露宴を開催した。危険物倉庫2棟と普通品倉庫1棟で構成され、いずれも定温管理に対応。ISOタンクコンテナ100基

の貯蔵施設も設けた。披露宴で大東社長は「危険物や温度管理が必要な貨物、長尺物、重量物など付加価値の高い貨物の取り扱い拡大を見据え、新センターを竣工した。危険物取扱資格者をはじめ有資格者を配備し、高品質な物流サービスを提供して

同社では姫路支店（姫路市飾磨区）で2018年9月に稼働した危険物倉庫の好調を受け、危険物倉庫事業をさらに拡大するため、兵庫ふ頭の準工業地域（臨海地区）の用地約1万5400㎡を確保。内外航船の岸壁を備え、危険物倉庫2棟、普通

## 兵機海運

# 兵庫埠頭物流センターを竣工

## 危険物倉庫は定温対応も

ISOタンクコンテナ100基を保管

いく」と意欲を見せた。

の森下一哉常務は話す。施設内にはWi-Fiを完備し、スマートフォンやタブレットを活用したシステム化・ペーパーレス化による庫内作業を予定。流通加工業務に伴う作業者の安定確保と働く環境改善のため、休憩室にはスマホ充電用のコンセントを豊富に用意するとともに一人用のカウンター席を多数設置。富士山を臨む大きな窓も設けた。

京浜港の混雑を受け、「首都圏から近く」「欧米航路を持ち」「コンテナターミナルのタ

ータイムが13分」を強みとする清水港への関心は高まりつつある。一方で、東京オリンピック・パラリンピック閉幕以降の定着が同港利用促進のカギとなっており、新センターで流通加工業務も受託できれば、清水港の持続的かつ安定的な利用にもつなげられる。



鈴木社長

大きく向上する。新物流センターを最大限に活用し、清水港への貨物誘致を加速させ、清水港と静岡県のさらなる発展に貢献したい」と新施設開設への期待を込めた。



大東社長

P対策として非常用発電設備も設置した。屋上、敷地にCO<sub>2</sub>排出軽減緑化を採用し、環境対策も充実。なお、神戸物流センターで導入したトラック予約システムを新センターでも4月から採用する予定だ。

**港運、倉庫、海運との相乗効果を発揮**

披露宴で大東社長は「当社は1942年12月兵庫県下の220社あまりの機帆船会社を統合して兵庫機帆船運送として設立。その後、兵機海運に商号変更し、株式上場を経て、先月12月30日に設立77周年を迎えた。内航事業専門家として創業した後、時代の要請に応え、港湾運送業、倉庫業、外航海運業と業容を拡大し、国内外の経済基盤を支える総合物流企業として今日に至っている」と会社の沿革を説明した。

新センターの特長として、

「海上コンテナを積み降ろしできるリーチスタッカーを備え、ドライコンテナはもとより危険物ISOタンクコンテナ対応のパンプールとしての利用も可能。神戸市公共岸壁に隣接する立地を活かし、倉庫から当社が運航する外航、内航船舶への直接の荷役による一貫海上輸送が可能で、港運、倉庫、海運の相乗効果も発揮できる」と紹介した。

一般品倉庫は1階の天井高が9.2mで床荷重が1mあたり5t。野積場には危険物等のコンテナ100基を保管できる。実入りコンテナの荷役が可能な北欧フィンランド・コネクリンズ社製（コマツ）のリーチスタッカー（45t対応）を配備し、コンテナを直置きして倉庫への出入庫作業を行える。コンテナをシャシーから降ろせるため、ドレージ車両の運行効率アップにも寄与する。

リーファ電源のほか、BC



鏡開きの様子

仁三郎会長（築港）は「危険物倉庫は全国各地で庫腹がタイトな状況が続いている。荷主企業、物流業界のコンプライアンス意識の高まりにより、危険物倉庫を利用する機会が増えている。米中問題で荷動きは停滞しているが、倉庫はどこもいっぱい。神戸地区は危険物倉庫が少なく、今回の増設は荷主、業界双方にとってありがたい。危険物として全面的にバックアップしていく」と述べた。鏡開きの後、乾杯の発声を行った兵庫県倉庫協会の若松康裕会長（川西倉庫）は「危険物だけでなく、一般倉庫についても在庫が高止まりしており、昨年11月の在庫数量トン数は前年比104.5%だった。新センターは危険物倉庫だけでなく、一般品倉庫もすぐに満庫になると思う。神戸地区に新しい倉庫が開業し、心強く、期待も大きい。神戸港の発展につなげてほしい」と語った。

「ダイヤモンド・オンライン」で

**経営 物流**

を **検索**

カーゴニュースとのコラボ企画絶賛稼働中!!